

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502405		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームこもれび Aユニット(1階)		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-30		
自己評価作成日	令和3年3月5日	評価結果市町村受理日	令和3年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170502405-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

直ぐ近くには月寒川が流れ、白石東公園や白石かしわ山公園もあり札幌市内にありながら緑豊かで静かな環境に位置しており、春には公園で桜を楽しむことができます。また、近隣には小学校があり子供たちが元気に遊ぶ姿が見られ、例年お正月には近くの白石神社へ初詣に出かける等、地域と共にある生活を送ることができる環境にあります(初詣に至っては、新型コロナウイルス感染予防対策で今年には行っていません)。施設内では暖かな陽が差し込む居間で入居者様がゆったりと過ごされ、カラオケやカルタ等のレクリエーションや日常生活支援としておやつ作りや洗濯干し等も積極的に行われています。職員育成では資格取得制度があり、認知症サポーター養成講座をはじめ認知症について定期的に学ぶ機会も多く、日々意見交換を行う等、チームで支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里グループホームこもれび」は、月寒川に近い住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。エレベーターを設置し事業所内は床暖房で段差がなく、各ユニットのトイレが5か所ある。風除室、中庭、居間、食堂のどこも広く清潔感がある。中央に吹抜けがあり明るい日差しが差し込む共有空間では、利用者が好きな場所で職員との談話やラジオ体操、カラオケ、洗濯物たたみなどをしたり、ソファに腰かけテレビを見るなど自由に過ごしている。居室は本棚、椅子、机、冷蔵庫などを持ち込んで壁に家族写真を貼り、今までの生活の延長として安心できる暮らしをしている。管理者と職員が協力し、利用者に対する言葉使いやコミュニケーションの取り方を向上することで言葉による不適切ケアを未然に防ぐ事につなげている。外出は感染症対策を整え、近くの公園に車椅子の利用者とも気軽に散歩をしているほか、紅葉の季節には真駒内公園へ季節を感じるドライブに行く等の支援をしている。今年度は感染症予防対策のため例年のような頻繁な外出が出来ず、また、家族訪問の自粛等で不便な思いをしているが、事業所内で楽しめることや家族とのリモート面会の支援をするなど、常に利用者や家族の思いを実現できるようサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を入社時や会議において理解・共有する場があり、日々ケアのサービスに生かしている。また、いつでも確認できるように理念をユニット内に掲示している。	職員は安全で健康な暮らしをサポートし、事業所の理念にある「その人らしい生活」と「その人の持っている力」が実現できるよう利用者に寄り添い支えている。職員は理念に基づいた介護が実践されているか日々確認しながら勤務をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルス感染防止の為、地域との交流や外出の機会がほとんど無くなってしまったが、近隣住民と顔を合わせた時には挨拶を交わし、関係作りに努めている。	前年度までは積極的に町内と交流をしていたが、今年度は感染症予防対策で制限をしているため、廃品回収に協力することや、散歩に出た際の近隣との挨拶などで交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談時など、認知症介護についての相談を受けたときはアドバイスをを行っている。また、現在はウイルス感染予防対策により行えていないが、町内やご家族へ向け認知症サポーター養成講座開催を検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、現在は新型コロナウイルス感染予防のため書面開催としている。行事報告やホームでの出来事、職員状況などを報告している。また、事前に参加予定者より地域への発信資料をお預かりしご家族へお送りするなど、架け橋となっている。	今年度から書面会議となっているが、会議の報告書を郵送する際は次回の案内に意見をもらえるように書いて働きかけをしている。地域包括支援センターからもらった「包括だより」や「お気軽講座の利用呼びかけ」を参考資料に添付し活用している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告を行い、登録変更などで不明点を相談したり毎月の空室状況の報告を行っている。	事業所からの報告は郵送やメールでの返信が多いが、感染症対策関連の連絡では電話で確認をしている。保護課の定期訪問は郵送で状況報告をしている。サポーター養成講座の件で高齢者保健福祉課と打ち合わせをしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	最低3か月に一度、身体拘束についての職員勉強会を開催している。また、社内で作成したマニュアルをいつでも閲覧できるようにしている。	3か月ごとの不適切ケア防止委員会でスピーチロックなどの言葉がけの問題点を話し合っている。半年ごとに不適切ケア防止や認知症による行動障害と対応策を研修し、終了後に学んだ内容を業務で活かせるようレポートを提出している。身体拘束等の適正化のための指針も整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で虐待についての知識向上と検討を行っている。定期的に虐待について学ぶ機会があり、不適切なケアが行われないよう職員全員で取り組んでいる。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後継人制度については触れる機会が少なく、今後、勉強会などで学ぶ機会を作る必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、できるだけ不明な点を質問しやすい雰囲気作りを心がけ、コミュニケーションを交えながら説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にご家族へ意見書の提出をお願いしており、意見を頂いている。頂いた意見・要望を尊重し、職員全員で共有・話し合いを行い運営に反映させている。	法人からの家族アンケートでトイレのウォシュレット交換や、車椅子を購入するなど意見は運営に反映している。利用者の意見から照明をLEDに変更し明るくなったと喜ばれている。訪問制限期間はWeb面会できるように支援をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談を行っている他、職員が意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。また、受けた意見・要望についてはユニットリーダーと共有し、連携して改善に努めている。	個人面談の他にも、ユニット会議や日々の業務では日ごろからコミュニケーションを取りやすい雰囲気である。ケア方法や業務での改善提案は頻繁に出されておき、働きやすい職場環境を整えるよう意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間契約内容の改定があり、疑問や不安を聞く機会も多くあり、職員が納得して働けるように都度丁寧に説明を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれの課題を把握し、必要な助言やアドバイスを随時行っている。働きながら学べる資格取得制度も設置されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	可能な限り外部の勉強会や意見交換会に参加し、医療や福祉分野のネットワーク作りや意識向上に努めている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報をもらい、ご本人との面談の際にもアセスメントをしっかり行うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学や面談でお話をお聞きし、グループホームの特徴をお伝えしご家族の要望にどのような支援が行えるか丁寧に説明するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の段階で出来る限りご本人とご家族の意向や困っていることを伺い、他サービスを含めアドバイスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の残存能力を見極め、ご本人の負担にならないよう、家事などを一緒に行っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止対策で面会などの制限があるが、日々の様子を電話やビデオ通話など活用してできる限りお伝えできるように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止対策により難しい部分が多いが、ご友人からの手紙や年賀状をお渡しし自室に飾るなどのお手伝いを行っている。	カラオケに通っていた利用者が入居後も継続できるよう共有空間でカラオケを楽しんでいる。クラシックを聴く習慣のある利用者は居室にて好きなCDをかけている。これまでの趣味や大切にしてきたことが継続できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性や個人個人の個性を把握して、コミュニケーションのサポートを心がけている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な情報提供を行ったり、退去後もご家族などからの相談があれば支援できるように心がけている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がどのように過ごしたいのか考えながら支援するよう努め、職員間で情報共有や意見交換を日々行っている。	利用者ごと好きなメニューを選んで食べられる出前レクや、数種類を用意して好みのお菓子を選べるレクもある。利用者が望む外出先として図書館に行くなどの支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活状況の把握に努め、必要であればご家族やケアマネージャー、ソーシャルワーカーなどから追加で聞き取りを行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできる事、やりたい事などをくみ取れるようにコミュニケーションを取り、評価に繋げている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで情報を共有し、日々の細かい変化などは申し送りノートなどで周知している。必要時にはアセスメントの見直しを行っている。	現状に即した介護計画は3か月および6か月ごとに更新をしている。カンファレンスでモニタリングを評価しながら検討し、利用者や家族の思いと意見を取り入れながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やケースへ記入し共有している。また、情報を支援に活かせるよう、アセスメントや見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会制限中、ご本人やご家族の希望があればオンライン面会など工夫して対応をしている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止対策により、地域交流は出来ないが、チラシなどを一緒に見ながら近所のスーパーの売り出しや、近所のお菓子屋の話をするなどして、地域資源に触れる機会を作っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご本人またはご家族が自由に選択できる環境にあり、希望があれば往診へ切り替えるための対応も行っている。	月2回協力医の訪問診療と、毎月歯科が口腔ケアの指導と虫歯治療や義歯調整に来ている。健康管理記録を看護師へFAXし状況報告をしている。他科受診は事前に通院先へ電話で状況を伝えて家族が同伴受診するなど適切に支援をしている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護の他、受診結果を担当看護師に都度連絡をし、必要であれば相談もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書やサマリーを利用し、医療機関との情報共有と連携に努め、入院時や退院してからも入居者が安心して生活し続けられるように努力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時や入居時に重度化した際の対応について説明し、指針について同意を得ている。また、入居後も状況毎に相談があれば都度説明やアドバイスを行っている。	事前に重度化になった場合の説明をしている。医師、事業所、家族で話し合い、治療を優先する必要がある場合は最善の方法を検討し療養型の介護施設や病院など移転先を検討するなどの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事対応マニュアルを使用し、定期的に緊急事への対応についての勉強会を開催している。また、日頃から提携医療機関や各主治医と情報を共有し、緊急事に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日頃から災害時の避難場所の周知に努めている他、年に2回の夜間想定を含めた避難訓練を行っている。	災害マニュアルを整備し、年2回火災訓練を行っている。リカバリーセンターが避難先になっており、災害備蓄品も準備している。浸水想定地域のため、避難方法を検討する予定である。	火災以外を想定した訓練を次年度検討する計画があるため、避難場所までの経路の確認の他に避難後の利用者の過ごし方も検討し、災害時に備えることを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者様の尊厳や自尊心、羞恥心を基本に考え入居者様と接するように努めている。また、既往歴を共有しその方の生き方を尊重した支援方法を検討している。	職員は研修システムのeラーニングで尊厳の理解と接遇を学んでいる。気になる言葉が聞こえた場合は、管理者や職員同士が改善できるよう説明をしており、利用者の尊厳を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別カンファレンスを行い、自己決定につながる声かけ・アプローチをどのように行ったら良いか検討している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りその方その方のペースに合わせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服をご本人と一緒に選んだり、可能な方は整髪はご本人自身で行われています。ご自分で行え根井方にも、鏡を見ていただきながら整髪介助を行っている。例年、2ヶ月に1回の訪問理美容を利用している。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事などで季節を感じられる食事を出前したり、日々の食事の準備を入居者様と一緒にしている。	日々の献立とは別に海鮮の出前や、お好み焼きを作り変化のある食事をする機会もある。誕生日は利用者の好みのケーキを提供している。食器拭き当番表で順番に活躍できる場面を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは栄養士が考えた物を提供している。個人の食事摂取・水分量をチェック表を使用し、把握と共有を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後と起床時に口腔ケアを行っている。出来るところをご本人に行っていたり、必要な部分はお手伝いしている。歯科医師に定期的なアドバイスを求めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、その方の排泄パターンをアセスメントし訴えの少ない入居者様へは3時間を目安に声かけ、誘導を行っている。	排泄チェック表に記録し、時間や利用者の様子をみながら適切にトイレへ誘導している。排泄が自立している利用者にはトイレを使った場合に確認のため状況なども聞いて記録している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操に加え、毎朝ヨーグルトを提供している。また、場合により下剤にて調整することがある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	出来る限り入居者様の希望に添った入浴支援を行っている。入浴剤を使用し、リフレッシュ出来る環境を作っている。	1人平均週2回、利用者に合わせた入浴支援をしている。好みの湯加減や入浴剤を選ぶなど、入浴が楽しい時間となるように配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの就寝環境に合わせ、照明や温度を調整している。眠れないと不安を訴える入居者様には医療機関に相談できる環境がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を職員全員が共有出来るようにしている。頓服薬や処方が変わった際には様子をケースに記録して変化を観察している。また、服薬マニュアルに沿って誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様とのコミュニケーションの時間を設けるようにつとめている。毎食後の茶碗拭きや洗濯干しをお願いすることにより、入居者様から作業を行ってくださるようになってきている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止対策で外出は制限されているが、車椅子の方も、希望があれば建物内を案内したり、2階に行き来出来る支援が出来る。暖かい日には外へ出て日光浴へお連れしている。	外出の自粛期間中であり頻繁に外出が出来ないが、感染予防対策をしたうえ紅葉の時期に真駒内公園で季節を身近に感じるドライブをしている。散歩や公園まで歩いたり、玄関横のベンチで外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご自分でお金を管理可能な入居者様はいないが、可能な方は所持していただく事は可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば対応している。また、ご家族や友人から届いた手紙などご本人へ手渡しし、必要であれば職員がいつでも見れる居室などに展示している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部に折り紙などで作成した季節を感じられる展示や、設えをし華やかで心地よい空間作りに努めている。また、浴室と脱衣所の温度差に注意するなど、気を配るように努めている。	共有空間は清潔感があり、エアコン、加湿器で温湿度の管理がされている。食堂の壁に食器拭き当番表を掲示して、役割を持つことで認知機能の低下を予防している。ラジオ体操やカラオケ等の楽しみごとができる居心地のよい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様が気分転換が出来るように、テレビを視たり新聞が読める場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室にはご自分の好きな写真や絵、小物を用い、入居者様が安心できる環境作りを行っている。	本棚の好きな書籍や新聞を読んだり、安眠のために就寝前に好きなCDで音楽を聴くなど、利用者の今までの暮らしを継続し安心して過ごしている。家族の写真、椅子や机、テレビなどを配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部にはカレンダーや時計、トイレや居室前には迷わぬように表示を設けるなど、工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502405		
法人名	S&Nふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホームこもれび Bユニット(2階)		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-30		
自己評価作成日	令和3年3月5日	評価結果市町村受理日	令和3年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502405-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

直ぐ近くには月寒川が流れ、白石東公園や白石かしわ山公園もあり札幌市内にありながら緑豊かで静かな環境に位置しており、春には公園で桜を楽しむことができます。また、近隣には小学校があり子供たちが元気に遊ぶ姿が見られ、例年お正月には近くの白石神社へ初詣に出かける等、地域と共にある生活を送ることができる環境にあります(初詣に至っては、新型コロナウイルス感染予防対策で今年は行っていません)。施設内では暖かな陽が差し込む居間で入居者様がゆったりと過ごされ、カラオケやカルタ等のレクリエーションや日常生活支援としておやつ作りや洗濯干し等も積極的に行われています。職員育成では資格取得制度があり、認知症サポーター養成講座をはじめ認知症について定期的に学ぶ機会も多く、日々意見交換を行う等、チームで支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で理念を共有し、事務所やユニット内でいつでも確認できるように掲示している。さらに日々の支援の指標として尊寿に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防対策によりしばらく行われていないが、以前は地域開催の行事日程を確認し入居者様参加していた。ローカルなルールを尊寿して地域の輪から外れないようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談や、ご家族から認知症の方の家族としての悩みや苦勞の相談を受けた際には気持ちに寄り添いお話を聴き、専門的なアドバイスを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、事業所全般の活動を入居者様やご家族にも参加していただき報告や意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より不明な点は包括や市役所へ相談し、助言をいただいで協力関係を築くように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規入職者への早期研修や職員への定期的な研修を実施し、理解を深め合うことで予防・防止につながっている。具体的な行為を記したマニュアルは、職員がいつでも確認できるよう事務所に掲示している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時のオリエンテーションで高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設け、さらに定期的に勉強会を行い虐待の防止を徹底している。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後の年間勉強会スケジュールに組み込み、後見制度について学ぶ機会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書の改定があった場合には、ご家族へ十分説明し同意書を頂いている。また、入居時において契約内容を説明し不明な点があれば補足説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に意見書の収集を行って入居者様・ご家族の想いや意向に耳を傾けるように努めている。また、要望の実現化に繋げられるよう共有と検討を行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別に面談する機会を設けたり、連絡ノートなどを活用し提案ができる環境がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務の中で職員の意見や提案などを出来るだけ取り入れ、やりがいに繋げられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で、職員個々の技術やレベルのマネジメントを行い、個別での指導も随時行っている。また、資格取得制度を利用しスキルアップできる環境が整えられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部で開催される交流会に積極的に参加するように努め、同業種などとの情報交換を行っている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時にアセスメントを行い、ご家族の想いに寄り添いお話を聴くように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今、どんなことに困っているのか、また、悩んでいるかをくみ取れるような場づくりを心がけ、必要に応じて助言するなど関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に情報を把握し、必要性の高いニーズを見極め、支援計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは末永く行えるように自立心を大切にしつつ、過剰介護には気を付けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染防止対策で面会などの制限があるが、日々の様子を電話やビデオ通話など活用してできる限りお伝えできるように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響により、外部との交流はできなくなっているが、知人から年賀状など届いており、それをいつでも見ることができるよう自室に展示している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性をモニタリングし、食席や普段過ごされる場所への工夫をしている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止対策により、面会制限は入院先に電話で様子を確認するなどして、退院後も安心して生活ができるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が難しい方は、ご家族の意見を伺うなど、その方にとって最良な過ごし方を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や居宅事業から、既往歴や基本情報をいただき、出来る限りその方を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方をケースや申し送りを通して把握し、その方のペースに合わせた支援のタイミングなどを都度検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度個別カンファレンスを開催し、課題について検討している。また、日常的にも課題の検討や評価について話し合いケアプランに活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で気づきや経過などをケース記録を活用し共有している。必要に応じて介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会制限中のため、ご家族との面会は難しくなっているが、希望があれば通話やビデオ通話で対応するなど、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は町内のお祭りや近所の神社へ行っていたが、感染予防のため、最近は行っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ馴染みのある病院の受診を継続している。また、入居者様の件呼応状態について相談している。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護と往診時に、入居者様の体調について相談している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関と情報を共有し、入居者様が早期に退院できるように退院後の支援についても柔軟に対応している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の指針について説明し、同意を得ている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	予想される急変の際の対処法を主治医に確認し、対応に当たれるように共有している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。可能な時期には近隣住民への参加も呼び掛けている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方その方を尊重し、尊厳を大切に声掛けを行っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が意思表示しやすい問いかけ方を意識している。飲み物など、ご本人の希望を聞いて提供するようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調やペースに合わせ、過ごしていただけるように強引な声掛けはせず、少し時間をおいて誘導するなど工夫している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用している。その日着る服は出来るだけご本人と一緒に選ぶようにしている。			

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事毎に食事を工夫したり、茶碗拭きなど入居者様と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少なくなってきた方へは、医療機関と相談し栄養補助食品なども提供して栄養摂取が維持できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の残存機能に合わせて、出来ないところのブラッシングをお手伝いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミングのアセスメントに排泄表を活用している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に毎日牛乳を提供している。また、無配便3日目より下剤を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調なども考慮し入居者様のペースを尊重した入浴対応を心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力が低下している方には昼間ソファで休んで頂いたり、テレビを視ながらゆっくりと過ごせるスペースを確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を確認し、どのような薬を服薬し、効能と副作用などについての把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食後の茶碗拭きを担当制にする事によって、入居者様自身が担当表を確認し役割とされている。		

ふれあいの里グループホームこもれび

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出の機会は減ったが、天候の良い日にご本人の希望があれば可能な限り外出などの支援を行っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力によって金銭管理を行って頂くことは可能だが、現在はそれに該当する入居者様はおらず、行っていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応できる体制がある。職員が補助として着くこともある。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気が乾燥する時期には加湿器を使用したり、夏はエアコンを適度に使用し温度・湿度管理に気を配っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ気の合う入居者様同士楽しく過ごしていただけるように食席の配置を配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自宅で使用していた馴染みの家具などを置き、配置もご本人やご家族と相談して決めている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレがわかりやすいように表示を設け、夜間はスポット照明を活用するなど工夫している。			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホームこもれび

作成日：令和 3年 3月 30日

市町村受理日：令和 3年 4月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災以外を想定した訓練が行えていないため、訓練の実施と避難後の対応について再度確認と検討が必要。	避難経路の明確化と、具体的なマニュアル内容の見直し。	避難場所までの経路を、訓練時以外にも散歩などを利用して実際に入居者様と歩く機会を増やし、有事の際に歩き慣れた路で混乱を防ぐ。避難後の入居者様の過ごし方についての内容を災害時マニュアルへ追加し、避難訓練時に勉強会を行い職員へ周知していく。	6か月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。